

1. 評価結果概要表

作成日 平成19年11月28日

【評価実施概要】

事業所番号	0173600776		
法人名	株式会社 健康会		
事業所名	グループホーム しらかば		
所在地	苫小牧市ときわ町3丁目4番1号 (電話) 0144-67-5401		
評価機関名	(有)ふるさとネットサービス		
所在地	札幌市中央区北1条西5丁目3 北1条ビル3階		
訪問調査日	平成19年11月26日	評価確定日	平成19年12月26日

【情報提供票より】(19年10月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成17年3月10日		
ユニット数	2ユニット	利用定員数計	18人
職員数	18	常勤17人, 非常勤1人, 常勤換算11.7人	

(2) 建物概要

建物構造	木造 造り		
	2階建ての	1~2階部分	

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	34,000円	その他の経費(月額)	冬季間21,000円
敷金	無		
保証金の有無(入居一時金含む)	無	有りの場合償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	400円	昼食 300円
	夕食	500円	おやつ 100円
	または1日当たり 1,200円		

(4) 利用者の概要(11月26日現在)

利用者人数	18名	男性	4名	女性	14名
要介護1	0	要介護2	6名		
要介護3	7名	要介護4	3名		
要介護5	2名	要支援2	0		
年齢	平均 84.2歳	最低	71歳	最高	94歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	苫小牧日翔病院、道央佐藤病院、吉田内科医院、ときわ歯科クリニック
---------	----------------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

新しく造成された分譲地にありホームの周辺は、まだ住宅建設が進んでいませんが、地域の住民の方々との交流はとても濃密なものがあります。住民の深い理解のもと、管理者始め職員の努力で、本来の地域密着型のグループホームが形成されつつあります。さらに家族の訪問頻度が高く、ホームの運営に参画する理想的な形もできつつあります。そのような中、利用者の自立した生活への支援が地道に行なわれ、利用者の楽しげな笑い声が途絶えることのない日常を垣間見ることができました。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>ホーム案内のパンフレット及びトイレの照明については、改善されておりました。また、市との係わり改善はあまり進んでは居ませんが、現在も検討中であり、早期の取り組みが期待されます。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>自己評価の作成については、各ユニットごとに細やかなチェックが行なわれており、職員全てが等しく前向きに対応されている様子がみえました。今後の取り組みに際しても改善シートの利用を考慮し、これまでも増して計画的な改善の取り組みを期待します。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>地域の委員、また利用者、家族が一堂に会して内容の濃い会議が開催されていますが、これからは2ヵ月毎の開催及び今回の自己評価並びに外部評価を公表しながら、意見交換をし取り組みへのモニター役を担ってもらうなど、会議内容の幅を広げホームのサービス向上を図られるよう期待します。</p>
	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>家族の訪問頻度が非常に高いこと、また今回の外部評価に寄せられた家族アンケートも9割の回答を得るなど、家族がホームの運営に深い関心があることが良く理解されました。職員も家族の訪問時を利用して、意見や要望をお聞きする努力が続けられています。これからは現状よりレベルの高い職員の接遇のスキルアップに努められ、家族の抱く要望などを的確かつ敏速に察知されるよう期待します。</p>
重点項目③	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>ホーム近辺の街灯新設に配慮を頂く、また、町内の祭りへのご招待など、地域の方々との交流は多くの面で係わりが増しております。これからは利用者の目線に立った利用者の暮らしを豊かなものになるよう、地域と一体となった一層の取り組みを期待します。</p>
	<p>重点項目④</p>

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	利用者が以前に地域の住民の一員として暮らしてきた経緯を、このホームでの生活でも取り入れられ、地域の方々との交流を通して自分らしく生き活きと暮らせる理念がうたわれています。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者及び職員は、日常的に職務の終わりには振り返るなど、理念どうりのサービスができていくか自らの問い掛けを励行しています。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	利用者及び家族の理解を得て会報「しらかば通信」を町内会に回覧するなどしていますが、住民の方々のご理解が良く得られており、ホーム近辺の街灯不足も地域の協力により新設され、夜道の不安が解消されています。管理者及び職員も利用者が交流できる場面作りを積極的に作るなど支援しています。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価の意義と活用を図るため、両ユニットとも、全職員が各項目について各々記載して、普段気づかない点の掘り起こしを行なって作成し、ホームの質の向上に役立てたいと考えており、積極的かつ前向きな姿勢を評価します。		

苫小牧市 グループホーム しらかば

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	昨年11月に開催、また、本年10月に開催されており、内容的にも適切な報告や地域の方々の貴重な意見や協議がされていますが、開催の回数が少なく、折角の協議内容も進捗状況の報告について効果が薄れる懸念を生じます。	○	会議での積極的な意見などを生かすため、2ヵ月毎の開催を定例化することが望ましく、また、従来の協議内容に自己評価及び外部評価の公表と、取り組みを加えるなど、改善経過のモニター役を担ってもらいながら、ホームのサービス向上を図るよう期待します。
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	この項目に関しては、前回の外部評価でも指摘されているところですが、従来、何か課題が生じた場合のみ市の担当窓口相談しているほかは連携体制が乏しい状況にあります。	○	ホームの現況、当面する課題に加えて、ホームでの催事について、包括支援センターの担当者ばかりでなく、市の担当窓口へも招致のご案内をだすなど、積極的な行動により連携の強化を図られるよう取り組みに期待します。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	家族の訪問頻度は非常に高く、訪問時での家族との会話も頻繁に行なわれているようです。また、ホームでの暮らしぶりを家族に伝えるため、写真をふんだんに取り入れた「しらかば通信」を作成しており、利用者の一人ひとりの様子を手書きによるお知らせ、金銭に関する収支も同封して家族のもとへ送付しています。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族からの意見や要望、苦情は、ホームの改善のために重要であるとの認識が全ての職員で共有されており、話し合える雰囲気作りを大切に努めている様子が強くうかがえます。家族アンケートも9割もの回答が寄せられるなど、家族自体の認識も高いものがあります。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動は比較的に少ない状況にありますが、これまでの事例では離職などの際には、引継ぎに万全を期しながら利用者の混乱やダメージをできるだけ少なくするよう気配りをしています。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	事業所内の勉強会は、毎月1回程度、主に管理者が講師となって開催されており、サービスの質の向上に向けた姿勢は評価されますが、外部研修の参加機会はあまり多いとは言えない状況にあります。	○	現在の内部研修に合わせて、外部研修による職員一人ひとりのスキルの向上を図る意味で非常に大切なことであり、また、ホーム全体のサービスの質の向上につながるよう積極的な取り組みを期待します。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	ほかグループホーム職員の訪問があるなど、交流を通じたホームのレベルアップ事業が行われています。今後はケアの現場での色々な問題、解決法などを持ち寄って全体で協議の場を作って行こうとの計画が進められています。		
の現場での					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用者の思いと家族の話し合いを通して、ホームへの安心感や馴染みを深めていただくため、「いきなり入居」ではなく、半日のホーム生活体験も取り入れて職員の顔を覚えていただくようにしています。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者は一人ひとりが多彩な経験、職歴を有しており、職員は教わるが多く相互に楽しめる関係ができています。男性の利用者から魚のさばき方を教わる、女性の利用者からは、料理の味付け教わるなど、普段の家庭に見られる支え合いながら一緒に暮らしが築かれています。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の係わりの中で声掛けにより把握に努め、職員間で共有するようにしています。家族からの情報も役立つ場合が多く、意思の疎通に困難をきたした時には家族に相談しながら、思いや意向を把握するように努めています。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	介護計画の作成には、事前に家族、利用者も含めた職員、ケアマネージャーとのカンファレンスが開催され、十分な意見交換の場ができており、その結果として利用者本位の計画が作られています。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	見直しのスパンを3ヵ月としています。期間にとらわれることなく利用者の状況の変化に応じた柔軟な見直しを行なっています。この場合も家族が一緒になって参画する体制ができています。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者や家族の状況により通院、入院退院時の送迎にホームや併設の療養通所介護センターの車両を利用するなど柔軟な支援が行なわれています。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月1回の訪問医による受診のほか、利用者一人ひとりの掛り付け医の指示を得て、看護師である管理者が適切な支援が行なえる体制ができています。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	利用者本人、家族の意向を聞きながら、重度化した場合のホーム対応を職員間で話し合いを進めています。また、ホームとしての方針を説明して了解を得るほか、掛り付け医とも連携を密にして事態に備えるよう努めています。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	食事中の排泄誘導など、ごく自然なさり気ない誘導がされており、職員のプライバシーを尊重する姿勢が見られました。カンファレンスや勉強会でも常に話し合われているようです。訪問受付簿もカード式を採用するなどの検討がされています。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者みんなが参加して行なうゲームなどは、体調に合わせ、一人ひとりのペースでゆったりとした「その人らしい」暮らしの支援がされています。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ひとつのテーブルで利用者、職員が一緒になって楽しい会話が飛び交いながら食事が進められています。できるだけ自力での食事ができるよう職員は気配りをしており、後片付けなど、必要でない手助けは避けている様子を見ることができました。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めず、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	利用者の生活習慣で夜間入浴を好む場合もあり、希望に添うよう配慮しています。利用者同士で誘い合い一緒に入浴する場合もあり、職員も一緒に入りながら見守りをするなどの支援がされています。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	今日は何をして見たいか、何をしたいかの問い掛け、希望を聞きながら楽しみごとを展開するようにしています。散歩などの外出も、皆で、一人でなど希望に添った支援がされています。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	利用者は、外出をととても楽しみにしており、管理者及び職員は、散歩、買物、町内会の催し参加など、外出の機会を創出するようにしています。一人での散歩、買物希望にも対応できるよう職員間で上手に調整がされているようです。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	ホームの周囲は最近分譲されて新築の住宅も少ないところから、利用者及び職員は防犯に対して特別な気配りをしており、夜は遅番が帰宅する9時30分から翌朝の6時まで玄関施錠をしています。昼間は利用者の動向が一目でわかる事務室の配置により見守りの徹底化が図られています。		

苫小牧市 グループホーム しらかば

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	緊急時のマニュアルにもとづき、消防署の協力のもと避難訓練が実施されていますが、職員が一人となる夜間の災害時避難については不安が残ります。	○	夜間を想定した避難訓練への取り組み、また、地域住民の方々の協力を得た避難訓練の取り組みを期待します。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事の摂取量や水分摂取はチェック表により、具体的に記録され職員が把握できる仕組みとなっています。食事の栄養バランスに関しては、知り合いの栄養士の助言を得ておりますが、利用者からの希望に加え、食欲が増すよう彩が豊かな食事の工夫が日々行なわれています。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者の皆さんが楽しく過ごされている居間は家庭的な雰囲気が満ちているなど、心地よい空間となっています。トイレの照明も改善されるなど、利用者本位のサービスの提供が感じられますが、窓ガラスの汚れ及び玄関内部の寒さが気掛りです。	○	潮風が強い立地条件のため窓ガラスの汚れが強いと聞きますが、特に汚れが目立つ2階の窓ガラスは定期的な清掃を必要とします。また、冬季間での玄関内部及び階段を吹き抜ける寒さ対策への取り組みを期待します。
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には利用者の使い慣れた家具調度品が持ち込まれて個性的です。備え付けのインターシュノール（収納庫）も利用者の衣類などの整理に合理的であるなど、居室全体が安心と安全の気配りがされた空間となっています。		

※ は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。